

研究発表会

研究発表の申し込みに関するお知らせ

木材利用システム研究会は、木材の適正な利用拡大を目的として、木材産業界、学術界、行政、消費者の相互理解と協調の場を提供するとともに、月例研究会を中心に、主に社会科学的な視点からディスカッションを行っています。

今年も、会員の皆さんの成果発表の場として、研究発表会を計画しました。木材の利用拡大に関し、企業等での実践報告から研究機関等での基礎研究まで幅広い発表を期待しています。また、優秀な発表に対する表彰を行っております。会員各位の積極的な申込をお待ちいたします。

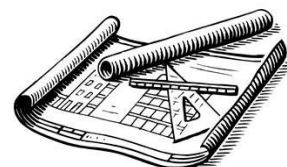
～ 記 ～

- 日 時： 平成 30 年 9 月 26 日（水）午後
※ タイムテーブルは、当研究会 Web およびメーリングリストでお知らせします。
- 会 場： 弥生講堂一条ホール（東京大学農学部キャンパス）
- テ ー マ： 木材の加工・流通・利用に関する技術開発の方向性、管理部門、営業等の工夫など会員各位の実践報告、木材利用を取り巻く環境および経済性評価、マーケティング、制度・政策、教育など。
- 発表時間： 発表 1 件につき、発表時間 12 分、質疑応答 3 分、計 15 分を予定しています。
- 参加費： 会員：無料（平成 30 年度の会費をお支払い頂いた会員に限ります）
非会員：5,000 円
※ なお、参加費を事前にお支払い戴き、お申し込み戴くことによって、平成 29 年度の会員登録が可能です。
※ 発表会終了後、情報交換会を予定していますが、この参加費は、別途 5,000 円を申し受けます。
- 申込期限： **平成 30 年 6 月 29 日（金）**
- 申込方法： 下記をメールまたは FAX で**事務局**までお申込ください。
①発表のタイトル
②発表の概要（200 字程度）
③発表者名（連名者を含む）とそれぞれの所属 ←登壇者を明示して下さい
④連絡先（メールアドレスと電話番号など）
- 申 込 先： 木材利用システム研究会事務局（お問合わせはメールにてお願いいたします。）
Tel：03-5841-7506 Fax：03-5841-0915
Mail：info@woodforum.jp
HP：http://www.woodforum.jp

●○○●○○●○●申込された方は、以下に従い、要旨の提出をお願いします●○○●○○●○○●

- 要旨提出： **発表者は執筆要領に従い、発表内容の要旨（A4 紙 1～4 枚）を 8 月 24 日（金）までに編集委員会へ提出して戴きます。**
→要旨は、『木材利用システム研究 vol. 4』に掲載し、当日、配付いたします。
木材利用システム研究は、ISSN（国際標準逐次刊行物番号）を登録しますので、文献として引用して頂けます。

- 要旨提出先：木材利用システム研究会 編集委員会
Mail：editor@woodforum.jp



(参考)

過去の発表テーマ一覧（直近過去2年分）

【総論・木材利用を取り巻く環境】

- ① 国産材の価格形成メカニズムに関する試案（森林総研）
- ② 貸家が牽引する住宅着工と伸び鈍化の住宅ローン残高 —2015年夏から16年夏にかけての動向—（農中総研）
- ③ 2016年度の住宅着工と住宅ローンの動向—依然として堅調な貸家着工、金利先高観も影響—（農中総研）
- ④ 国産家具の製品ベースでの木材使用量および国産材率の把握（森林総研他）
- ⑤ 木材加工と構造設計からみた木造化の課題と解決策—プレカット加工とCAD-CAMの今後—（アルファフォーラム）
- ⑥ 建築用木質製品利用の変遷における合板の位置づけ（森林総研）

【制度・政策】

- ① 製品の安定供給のために・・・BCP策定で有事に備える（日本ノボパン）
- ② 「ウッドデザイン賞」を活かしたマーケティング戦略（国土緑化推進機構）

【企業・団体の木材利用拡大にかかる取り組み（技術開発の方向性等を含む）】

- ① 国産材活用の事例と取り組みについて（タマホーム）
- ② 国産材を利用したWOOD.ALCの取組みについて —非耐力壁(厚板集成版)による木質化—（協和木材）
- ③ ウレタン系反応性ホットメルト接着システムの針葉樹合板への応用（DIC）
- ④ 国産材・地域材活用への建材メーカーの取り組み（大建工業）
- ⑤ 地域材活用ソリューション「Econifa」の取組みと屋外用ベンチ「ヴィーレック」について（イトーキ）
- ⑥ 都市の木質化PJにおける文化開発プロセス（名古屋大）
- ⑦ 木材コーディネーターがつなぐ暮らしと木材（森のマルシェ）
- ⑧ 多様な時空間スケールに対応可能な森林計画策定支援システムの検討（東京大他）
- ⑨ Weyerhaeuser社の事業と北米マーケットの見通し（ウェアハウザー・ジャパン）
- ⑩ カナダの木材製品輸出マーケティング戦略（東京大）
- ⑪ 木材研究分野における「木の良さ」解明へのアプローチ（森林総研他）

【教育】

- ① 中学校技術・家庭科における木材の生産に関する指導内容の提案（上越教育大）

以上